

# 口頭発表 第1日

2月7日(木) 13:10 ~ 14:25

## 口頭発表の記録について

### <口頭発表の録音について>

自己学習に使用する場合であっても、録音できません。自校の記録等として参加者が録音を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

### <口頭発表の撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、撮影できません。自校の記録等として参加者が写真及びビデオの撮影を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

## 口頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 A会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

中学校 数学  
【日教弘秋田支部募集教育研究論文(入賞論文)】

探究型授業における主体的・対話的で深い学びの実現で育む資質・能力  
～数学科における「あきた・おおだて型」探究型学習の授業実践～

大館市立下川沿中学校 教諭 佐藤 朋子

社会を生きていく上で必要な資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が求められている。本校では、探究型の授業プロセスを確立し、協働的な学び合いとキャリア教育の視点での振り返りを通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指してきた。特に、数学科における取組の成果と課題を発信し、更なる深化につなげたい。

② 13:55~14:25

小学校 教科指導 授業改善  
【文部科学省委託 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究】

主体的・対話的に学ぶ子どもの育成  
～協働で学びを深める「シンカタイム」と自己を見つめ学びをつなげる「振り返り」～

大館市立城南小学校 教諭 田村美穂子

城南小が目指しているのは、反応・共鳴し、関わり合う学び合い学習である。城南スタンダードの授業の中で、児童が課題に向かって主体的に話し合い、学び合い、考えを深めていく活動を「シンカタイム」とし、発達の段階に合わせた話し合いを行っている。シンカタイムを含む学び合いに主体的に関わることにより、振り返りの内容も充実してくる。今年度のキーワード「協働力」を合い言葉に、全校で取り組んできた実践を紹介する。

## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 B会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

**小・中学校 道徳教育**  
[文部科学省委託 いのちの教育あったかエリア事業]

**体験活動を生かした道徳教育の充実  
～いのちの教育あったかエリア事業の取組を通して～**

男鹿市立美里小学校 教頭 佐々木伸一  
男鹿市立潟西中学校 教頭 小松 徹

秋田県教育委員会では道徳教育の中核に据える「生命の尊さ」「思いやり・感謝」をいのちの教育と位置付け、学校・家庭・地域の連携による地域社会全体で道徳教育に取り組むモデルづくりを行っている。

平成30年度、潟西中学校と美里小学校は、この事業のモデル地域として指定を受け、「いのちの教育あったかエリア事業」を通して連携を密にしながら、体験活動を生かした道徳教育の充実に向けて取り組んだ。

② 13:55~14:25

**小・中学校 道徳教育**  
[文部科学省委託 いのちの教育あったかエリア事業]

**命を大切にすることを育てる道徳教育の実践**

小坂町立小坂小学校 教諭 山崎 康孝  
小坂町立小坂中学校 教諭 杉本 真紀  
小坂町立小坂小学校 養護教諭 根本 治美

今年度、本校は「いのちの教育あったかエリア事業」を活用し、「いのちを大切にすることを育てる道徳教育の実践」に取り組んだ。健康教育の側面からは、様々な体験活動を実施し、「道徳科」「道徳の時間」との関連を図って、命の大切さを理解し、尊重しようとする心情や態度を育むことをねらいとした。さらに、小中一貫校の特色を生かして道徳教育を積み重ね、合同授業研究会も実施した。子どもたちは、様々な活動や道徳の授業を通して、命の尊さや大切さを理解し、かけがえない命を尊重しようとする気持ちが深まっていった。

## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 C会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

**幼・保・認定こども園等 就学前教育**  
[文部科学省委託 幼児教育の推進体制構築事業、わか杉っ子！育ちと学び支援事業]

**就学前教育・保育の質の向上に向けた取組  
～教育・保育アドバイザーの役割～**

大館市福祉部子ども課連携アドバイザー 北林 由香  
大館市教育委員会教育研究所幼児教育アドバイザー 石川恵美子  
大館市福祉部子ども課課長補佐兼保育アドバイザー 日景 恭子

就学前教育・保育の質の向上を図るための取組や保育現場へのきめ細かな関わりなどの実践を紹介しながら、事業で配置された教育・保育アドバイザーが行政と連携して行ってきた役割や成果について考える。

② 13:55~14:25

**特別支援学校 特別支援教育 職業教育**  
[日教弘秋田支部募集教育研究論文(入賞論文)]

**社会に貢献する人材の育成と「凡事徹底」の取組  
～企業就労の実現と卒業後の職場定着を目指して～**

県立栗田支援学校 教諭 今井 彩

栗田支援学校高等部環境・福祉科では、生徒の企業就労・職場定着を目的に、企業が求める力を身に付けるための日々実践すべき行動目標を「環境・福祉科の凡事徹底」として提唱している。凡事徹底として示した七つの内容について、生徒が行動化できるような場面設定を行ったり、評価シートを活用した振り返りを行ったりしたことで、自分の課題を理解し、就職に向けて改善に努めようとする生徒の姿が見られた。

## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 D会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

小学校 学校運営  
[秋田大学教職大学院研修]

内発的改善サイクルによる校内研究体制の在り方  
~教職員全体で取り組むカリキュラム・マネジメントを通して~

潟上市立出戸小学校 教頭 鑑 基倫

本研究のミドルリーダーを中心としたプロジェクトチームによる単元・題材配列表を活用するなどのミドルアップダウン・マネジメントは、学校の組織を改善し、教職員の内発的  
学校改善へとつなげることに有効に働くものとする。キャリア教育を教科等横断的な視点として取り組んだ小・中学校の具体的な実践を取り上げながら、新学習指導要領の実施に向けて、学校組織を変革していくためのプロセスを提案する。

② 13:55~14:25

小学校 学校運営  
[秋田大学教職大学院研修]

「桧木内プラン」による特色ある学校づくりの方策  
~地域連携の核となるミドルリーダーの成長を通して~

仙北市立桧木内小学校 教頭 小松 文彦

学校教育目標達成のために、これからはミドルリーダーの活躍が不可欠である。本校では、ミドルリーダーを育てながら継続的に地域連携を図っていくことで学校が活性化し、特色ある学校づくりができると考える。

本研究では、生活科と総合的な学習の時間の中で、全学年で地域素材を取り入れる学習を「桧木内プラン」と呼ぶ。2年間の研究で、ミドルリーダーの成長が「桧木内プラン」という形でアウトプットされた実践について紹介する。

## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 E会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

特別支援学校 特別支援教育 授業改善  
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充  
実事業]

「分かる、できる、振り返る」授業づくり  
~学びがつながる 人とつながる~

県立大曲支援学校 教諭 本多 由香  
寄宿舎指導員 後松 千恵

SWOT分析を行い、本校の特色ある活動を生み出すものや改善すべき課題を教職員間で共有した。早急に解決すべき取り組みやすい課題を導き出し、学びのつながりと人とのつながりを研究の視点に加えることとした。児童生徒の学びの場や内容のみならず、学習計画のつながりを重視し、教職員が協働で実践を重ねたことで、できたこと、分かったことを次に生かす授業づくりと教育課程の改善につなげる取組が積極的に行われるようになった。

② 13:55~14:25

特別支援学校 特別支援教育 授業改善  
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充  
実事業]

児童生徒の「学び」と「学んだことの活用」を生み出す授業づくり  
~「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて~

県立比内支援学校 教諭 進藤 拓歩

本校では、児童生徒の自立と社会参加を目指し、地域に展開する教育課程を編成している。今年度は「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりと学習評価に力を入れ、授業の質の向上を目指した。本発表では、実践から見いだした「授業づくりのポイント(5点)」を、実践例と合わせて紹介するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点と、観点別の目標とを一体的に表した学習指導案の「指導計画」について紹介する。



## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 H会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

**小学校 外国語・外国語活動**  
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

外国語を用いて伝え合う楽しさを感じながら、  
学んだことをコミュニケーションに生かそう  
とする子どもの育成

湯沢市立湯沢西小学校 教諭 黒澤英美子  
教諭 古山 明子

「英語によるコミュニケーションへの自信と意欲をもって臨める授業へ～Chance Challenge Change～」を合い言葉に、児童の言語活動の充実と教師の授業力向上を目指し、チーム体制で授業づくりを進めてきた。必然性のある言語活動や対話を生かした授業構成等を視点に、授業改善を重ねる中で見えてきた、One-up phrase等を鍵とした本校外国語活動の授業スタイルについて実践例を基に提案する。

② 13:55~14:25

**中学校 英語**  
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

思考力を深め、多様な発信ができる生徒の育成

湯沢市立湯沢南中学校 教諭 山内 雅子  
教育専門監 佐藤江梨子

本校英語科では「相手を意識して発信する力の育成」を「即興でやりとりする力」につなげたいと考え取り組んできた。取組の例としては、自分の考えや意見を説得力のあるものにするために、マッピングや付箋紙メモなどで考えを整理し、アイデアボードを作成して活用させた。また「ALTを活用したパフォーマンステスト」としてはインタビューテストを実施し、一つのトピックについて生徒が考えを深めていくことができるような質問をするなど質問内容を工夫した。

## □頭発表

2月7日(木) 13:10~14:25 I会場

### <提案のポイント>

① 13:10~13:40

**中学校 英語**  
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

主体的に、英語で考えや気持ちを表現できる  
生徒の育成  
～即興性を高めるための活動を通して～

にかほ市立金浦中学校 教諭 齊藤 篤

英語による言語活動の増加をねらって、スモール・トークや役割分担をした英文リーディング等のペア活動を多用した。また、SEA(スポーツ国際交流員)を招いて、生徒の表現意欲や即興性を高める機会を作った。「CAN-DOリスト」「ALTとのパフォーマンステスト」を活用した取組、個人やペアによる発表に対する質疑応答、ALTやJTEとの対話による即興で話す取組を通して、指導と評価の工夫を行った。

② 13:55~14:25

**小学校 外国語・外国語活動**  
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを  
図り、自分の気持ちを伝えようとする  
子どもの育成

にかほ市立金浦小学校 教諭 佐藤 茂樹  
教諭 村上 昭子

今年度、金浦中学校と共に拠点校の指定を受け、全校体制で研究に取り組んできた。国際教養大学と中央教育事務所からの指導を生かし、「分かる・できる喜びを実感できる授業」「伝える喜びを実感できる授業」というキーワードを軸に校内研修会を重ね、英語を用いた言語活動の充実とコミュニケーション能力・態度の育成に努めてきた。本校の外国語活動の授業改善への取組と成果・課題について報告する。

## □頭発表

2月7日（木）13:10～14:25 J会場

### <提案のポイント>

① 13:10～13:40

**特別支援学校 学校運営**  
【秋田大学教職大学院研修】

特別支援学校が地域と目標を共有し社会に開かれた教育を推進する仕組みづくり  
～地域連携コーディネーターとしての取組を通して～

県立能代支援学校 教諭 泉 拓行

教職大学院での研究「地域連携に取り組む教員と地域住民への意識調査」からは教育活動における目標を共有した取組の重要性や双方の意識のずれがあることが示唆された。本校の研究の目的の中にある「地域と目標を共有した教育活動」は、単元構想や教育課程編成など「地域とともにつくる教育活動」を進める一つの視点となっている。地域連携コーディネーターとして、地域との目標の共有をより効果的に進めるための取組や、地域と関わる活動の評価改善を教育課程編成の仕組みの中に位置付けていくための取組についての実践を報告する。

② 13:55～14:25

**小・中学校 理科**  
【東北理科教育研究協議会発表】

予想を基に展開する学習活動  
～小・中学校における理科の授業実践～

湯沢市立雄勝中学校 教育専門監 佐藤美千代

予想した内容を実験の方法等に反映させたり、実験の結果について予想と照らし合わせて考えさせたりする場を設定することで、予想を基に見通しをもって追究する活動を充実させた。検証方法を考えさせることで、実験結果の予想や結果の分析、考察の場面で、次々と問いが生まれ、主体的な問題解決の活動となり、深く学ぶことにつながった。また、児童生徒の考えを分析し、指導に生かすことで、理科の見方・考え方を働かせながら考察するようになった。